

文化財マップ

弓削・北野校区の文化財

弓削・北野校区の文化財

北野町のシンボルはいわずと知れた北野天満宮。北野天満宮が建てられたのは1054年。ただし、弓削・北野校区の歴史はさらに遡ることができます。

人が住みはじめたのは、弥生時代、約2000年前であることがわかっています。北大手木遺跡や彼坪遺跡で多くの土器が出土し、当時の生活の様子がわかります。鳥巣遺跡や十郎丸長谷古遺跡では甕棺墓がみつきり、人々の生活の範囲が広がっていく様子もわかります。今山向才ノ木遺跡からは関西地方の土器がみつきり、昔の人とはいえ、遠くの人と交流をもっていました。

この校区に古墳はなく、古墳時代は関係ないようにみえますが、大島遺跡という集落跡がみつかり、古墳がつくられた時代だから古墳時代と呼ばれていますが、人が生きているからこそその古墳。古墳がないことと、古墳時代が関係ないことは、全く別の問題です。この校区にもりっぱな集落があります。

11世紀になると、神代橋あたりを通るルートに変更されます。神代橋あたりで筑後川を渡り、北野天満宮の下宮から本宮前を通過するルートが設定されます。九州の交通の要所が、宮ノ陣から北野町に移されたのです。ちょうど、北野天満宮が建てられたころです。九州の大動脈が北野天満宮の前を通ることと、北野天満宮周辺が大きく発展していくこととなります。

こうして北野天満宮は北野町のシンボルとして成長し、北野町の原形はこのころにつくられたのです。また、シンボルゆえに、多くの福岡県指定文化財があり、さらに多くに宝物が眠っています。

江戸時代になると、様々な理由で筑後川に手が加えられはじめます。通称「鯉久保」といわれる地域に、治水のため放水路が掘られます。また、久留米藩の財政難を乗り越えるため、農作物の増産を目的として、床島堰をつくれます。

今の筑後川は元の形ではなく、人々の生活のため形を変えた姿をみせています。

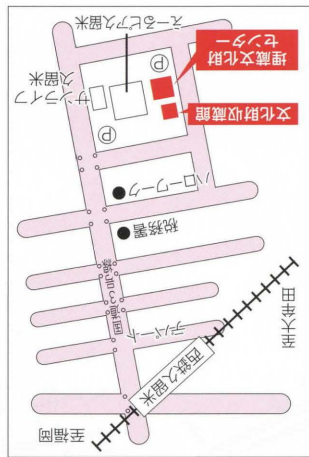
久留米市埋蔵文化財センター
 久留米市城南町15-3(市役所16階)
 ☎0942-30-9225 ☎0942-30-9718
 E-mail: bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp
 久留米市 文化観光部文化財保護課
 久留米市諏訪野町1830-6(スーパ敷地内)
 ☎0942-34-4995 ☎0942-34-5045

弓削・北野校区の文化財マップ
 発行:久留米市教育委員会
 編集:文化観光部文化財保護課
 平成18年3月31日
 <表紙>北野天満宮楼門

開館時間:午前9時~午後5時
 休館日:土・日・祝祭日・年末年始
 入館料:無料

《文化財に対するお問い合わせ》
 歴史に興味がある方もお気軽にお越しください。お待ちしております。

企画を行なっています。あわせて体験学習や現地説明会など盛りだくさんの秋には「考古資料展」などの企画展を開催し、さとの歴史とふれあふ展、春には「文化財フェスタ」、や文化財に関する相談に応じています。また、「ふるにオープンしました。センターでは、資料の貸し出しどの記録を収蔵・整理・研究するために、平成6年4月出土した遺物(土器・石器・金属器)や図面・写真な久留米市埋蔵文化財センターでは、市内の遺跡か

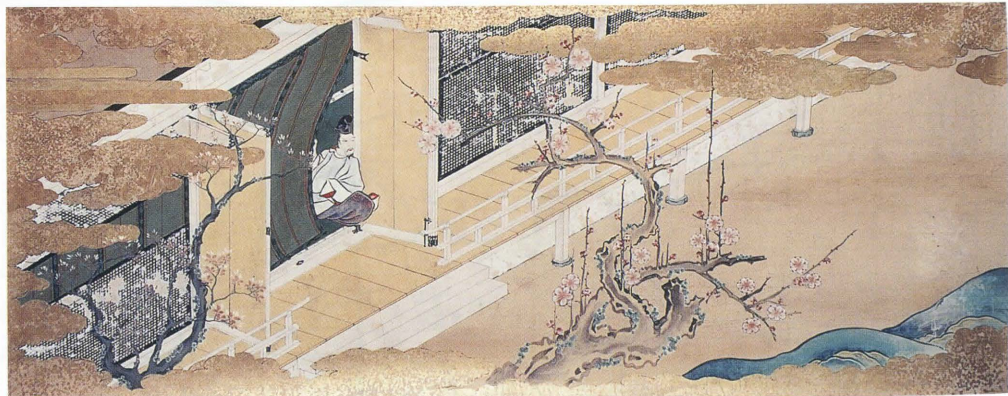


体験学習「まが玉づくり」の様子



久留米市埋蔵文化財センターのご案内

北野天満宮の指定文化財



ちくごのくにきたのてんじんえんぎ 筑後国北野天神縁起

天神信仰の象徴、それが北野天神縁起です。この神社に伝わる縁起は江戸時代の終わり頃の作品と考えられ、その後何度か修理されたり書き加えられたりしています。縁起によると、北野天満宮が天喜2年(1054年)に建てられたことがわかります。

きたのてんまんぐういしづくりとりい 北野天満宮石造鳥居

このような鳥居は、「肥前鳥居」と呼ばれ、慶長年間(1596~1614年)につくられたものが多いので、「慶長鳥居」とも呼ばれます。竝木の長さ5.35m、高さ4.01m、地表での両柱間の間隔は2.5mを測り、凝灰岩を削りつくられています。銘文から慶長12(1607)年の年号を読み取ることができるので、江戸時代のはじめにつくられたことがわかります。最初は下宮へ下る参道

